

## 「(江蘇大学研修) 参加報告書」

京都大学文学研究科1年(アレッシュ・モーリス)

**①学習成果**

江蘇大学のワークショップでは「少女マンガの女性キャラクターにおける『ボク』という一人称」というテーマについて発表し、日本の大学における現代日本文化学の研究の事例を紹介した上で、中国における日本学科の研究の一部を知る事が出来た。そのため、今後の研究の参考となった事がいくつかあった。

まず、参加者から受けた質問のおかげで研究の視野を広げることが出来た。例えば、マンガ家の意図以外にも読者が作品に対して持つ関心や作品の社会的影響も検討した方がいいという重要なアドバイスがあった。

さらに、日本社会の様々な問題を語学的視点から研究している江蘇大学の大学院生の新鮮なアプローチも大変参考になった。文化的視点から大衆文化における日本語を検討している自分の研究とは多少異なるが、共通点もあるため、機械があれば今後の自分の研究にも語学的理論を含めたいと思った。

そして、改めて現代文化学の研究には出来るだけグローバルな考え方が重要だと思った。比較研究などはもちろん、外国の研究者との交流も研究の新たな見方を生み出す事が出来るのではないかと。

**②海外での経験**

江蘇大学の院生たちの案内のおかげで中国の文化を以前より深く知る事が出来た。お互いの研究だけではなく、お互いの国の文化や生活習慣なども語り合い、視野を広げるような経験だった。

また江蘇大学研修の他に、焦山、北固山、金山や西津渡古街という鎮江市の有名な観光地も訪れた。その際、中国の歴史はもちろん、日中関係についても新たな知識を得た。

**③プログラム内容**

江蘇大学研修の主な内容として杉本先生の講義、両学院生ワークショップや江蘇大学の見学が取り上げられる。

江蘇大学の学生たちが杉本先生の講義に強い関心を示し、講義後興味深い質問やコメントがあった。また、両学院生ワークショップでは私を含めて二十世紀学の院生3人と江蘇大学の院生2人が自分の研究内容を発表し、質疑応答が行われた。

江蘇大学の見学では日本学科の研究室や日本語授業以外にも大学の図書館や博物館を訪れた。博物館では江蘇大学の歴史や他大学との国際関係について学び、図書館では大学院生によって所蔵の和書や日本学科で使われている教科書を詳しく紹介された。

**④進路への影響**

江蘇大学の日本学科を見学したことが大学の頃にシェフィールド大学の日本学科で日本語を勉強した私にとっては非常に興味深かった上で、今後の進路のためにも参考となった。卒業後ヨーロッパの大学の日本学科で就職を希望しているため、他の国において日本語はどのように教えられていることが重要な経験だと思っている。